

研究室旅行 2012 in 台湾 Lab. Trip 2012 in Taiwan

text_matsumoto

隔年で開催される研究室旅行。今回は7月30日(日)から8月4日(土)の日程で台湾を訪れました。台風直撃の悪天候にも負けず台北市内の視察や平溪線沿線でのWS等精力的に活動した6日間でした!

Although, it was heavy raining, we enjoyed lab. trip in Taiwan from 30th Jul. to 4th Aug.,!



▲剥皮寮歴史地区にて記念撮影

作為日本與台灣交流橋梁的近代化產業遺產保全

Industrial heritage conservation should be an exchange bridge between Japan and Taiwan

台湾の文化資産大致上可分為 1. 史前時代的原住民文化 2. 16-19 世紀的漢民族文化 3. 日據時期的近代化遺產 (1895-1945)。特別是日據時期的遺產數量遠高於清朝時期的文化資産、而且已成為目前台灣各地歷史保存與地域活化的重點項目。這次研究室旅行、主要是台北市舊鐵道沿線近代工廠群和 URS 的參訪。西村老師帶領研究室成員參訪台北市重要文化資産、也給予了許多寶貴的建議。另外、在平溪線工作坊中、研究室成員從當地居民學習許多最後也提出許多重要的觀點、思維與規劃。雖然台灣人民反對戰爭與殖民、但吾人卻不可以忘記台灣近代化過程的歷史。換句話說、文化資産撇開民族主義後、所應該保存應該是歷史的真實性。從西村研究室參與台北市參訪與平溪線工作坊獲得豐碩的成果得知、台灣的產業遺產應再利用成為日本與台灣交流橋梁。有鑒於此、我認為屬同一近代產業歷史體系的日本與台灣、未來應該有更多產業遺產保全的交流。

The cultural heritage in Taiwan can be broadly divided: 1. The aboriginal culture during the prehistoric period, 2. Chinese cultures during 16th - 19th century, 3. The modern industrial heritage during the Japanese occupation period (1895-1945). Especially, the number of the cultural heritage during the Japanese colonial period is much higher than Qing Dynasty period. And the heritage had become the key projects of historic preservation and regional activation in Taiwan. The subject of lab. trip is the modern plant group along railway and URS in Taipei. Prof. Nishimura and lab. members visited the important culture heritage. In addition, lab. members learned a lot from the local people and gave many important views, thinking and planning in Pinghsi line workshop. Although Taiwanese oppose to wars and colonization, we should not forget the modernization history in Taiwan. I consider that because of Japan and Taiwan within the same modern industrial system, we should have more exchanges in the future.

D3 王新衡

台北というまちを歩いて

Walking around Taipei

日本のように、日本ではない—台北のまちを実際に歩いてみて感じたことです。清や日本統治時代にできた建物を有効活用している URS (都市再生基地) は、単に歴史を紹介するだけでなく、地元の人々の憩いの場としても機能しており、これほどまでに面白く、訪れた人にとって魅力的な

施設だとは思いませんでした。日本統治時代に建設された施設を、今なお利用しているビール工場にも言えるように、「歴史的価値のあるものを未来へ残していく」という人々の不断的な努力がなければ、現在のこのような賑わいは実現しなかったのではないのでしょうか。

M2 仲村 貴文



▲ギャラリーとして活用されている剥皮寮の建造物

7/30 Mon. - 8/1 Wed. Visiting TAIPEI City

初日と2日目は、旅行参加メンバー全員で台北市内を見学

7月30日(月)、31日(火)の2日間は、台湾歴史資源管理学会の丘先生をはじめとするスタッフの方々に案内していただき、台北市が推進している都市再生前進基地 (Urban Regeneration Station, URS) や、台北市内で最も長い歴史を持つ龍山寺、旧工場施設を活用した文化園区などを見学しました。8月1日(月)は終日自由行動で、WS参加者は平溪へと出発!



▲台北最古の寺院・龍山寺



▲URS44にてレクチャー



▲王さんの案内で夜の台北散歩



▲サインに応じる西村先生

SCHEDULE

7/30 Mon.

台北到着
台北の都市計画についてレクチャー
@ 台北市庁舎
URS44・127・155・21 見学

7/31 Tue.

剥皮寮歴史地区レクチャー・見学
青草巷・龍山寺
糖廊文化園区
松山文創園区 (旧煙草工場)
台湾ビール工場
華山創意文化園区 (旧ワイン工場)

8/2 Thu. - 8/4 Sat. Píngxī Work Shop

M1 と有志は台湾東北部の台湾鉄道平溪線沿線でのWSに参加!

三度目は三貂嶺

B4 丸山 裕貴

私は三貂嶺班で現地見学→地図に資源を落とし込みディスカッション→現地見学→発表準備と作業を進めました。二度の現地見学では、強い日差しで緑が輝く農村と、夕刻の霧の中にひっそりと佇む山間集落、2つの異なった姿を知ることが出来ました。風景だけでなく、時間の移り変わりに合わせて人々の生活の変化があり、「訪れるたび新しい発見のある集落」を私たちの考える三貂嶺の良さとし、現地発表を行いました。いつか「三度目は三貂嶺」を知りに訪れたいと思います。

平溪駅周辺の将来を考える

M1 児玉 千絵

平溪駅周辺班は地元の王肇経さんに案内して頂き、現在観光の中心である町並みよりも、広く散在する8つの地域資源・マネジメント対象に着目しプレゼンを行いました。特に日常生活と観光化の間で埋もれていた地元芸術家の記憶再生や、現代的な建築物の色彩コントロール、平溪線のダイヤを考慮した散策ルートのサイン整備等、他の出席者からもその必要性に賛同して頂いたものが多く、アイデアの1つ1つが今後平溪駅周辺の将来を考える上で少しでも助けになれば幸いです。

DAY1 全員で現地見学

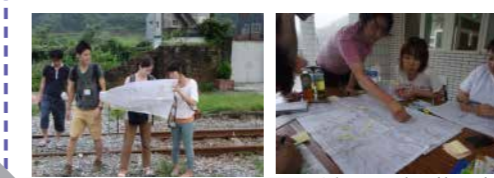


▲雨の中金瓜石を見学



▲平溪線沿線の様子

DAY2 二班に分かれて現地調査開始



▲三貂嶺班現地調査中!



▲平溪駅周辺班の熱い討論



プレゼンに向けて夜を徹して作業!

DAY3 いよいよ成果発表!



▲三貂嶺班のプレゼン



▲平溪駅周辺班のプレゼン



最後はみんなで沢遊び☆おつかれさまでした!

ちょっと寄り道 Side trips to Tainan & Hongkong

臺南 Tainan



▲台南担仔麵屋で林さんのご家族と



▲日本時代の街並み新化鎮は夫妻の故郷

研究室旅行後の8月2日(木)と3日(金)に博士2名、修士2名で、歴史的な史跡や町並みが残る台南を旅しました。

台風直撃により、台南の商店や史跡の多くは閉まっており、夕方はホテルで休養の旅になりそうでしたが、ふらっと立ち寄ったカフェで奇跡の出会いがありました。全員でガイドブックとにらめっこをしていた際、後ろの席から流暢な日本語が聞こえて来たではありませんか！その声の主は南台科技大学に勤務されている林さんと奥様で、お話をしていく中で、共通点が

スケジュールが組まれた旅行も充実していますが、せっかくの研究室旅行も台北だけではもったいない、ということで解散後に台南と香港・澳門を訪れた学生からの報告です。



▲築200年の建物もある神農老街



▲日本時代の塩倉庫だった安平樹屋

いくつもある事が分かってとても盛り上がり、林さんご夫婦のご厚意で、お嬢さんも加わり台南の街を車で案内して頂く事に。街中や入り組んだ運河、台湾という名称の由来である安平地区、鄭成功ゆかりの成功大学、奥様が勤務する歴史ある高校と近くにあるご自宅、ご夫婦の故郷の新化鎮の街へと解説を交えながらのツアーとなり、所々で台南名物の料理に舌鼓、とても充実した旅となりました。林さんご一家はもちろん、至る所で台湾の方の温かさに触れられ、台湾のとりことなった旅行でした。

香港・澳門 Hongkong Macau



▲屋台と夜空(香港)



▲屋台で活気づく街廊(香港)



▲歴史地区の広場(マカオ)



▲ギアの丘から望む市街地(マカオ)

POPS in Hongkong

text_omori

平溪線WS終了後の8月5日(日)から8日(水)にかけて、黒瀬・クリス両助教は台湾から直接香港に飛び、香港の公開空地調査を行いました。M2の大森も帯同しました。

香港理工大学の設計学院博士研究生のナタリーさんの案内で、40度近い気温とむせ返るような湿度の中、香港中心部の公開空地を踏破しました。都市域が限られている香港は必然的に建物が高層ですが、林立する高層建築の密度の高さに驚きました。その一方で、太極拳など公開空地で見られるアクティビティも様々で興味深いものがありました。



▲息を呑む香港島中環の夜景



▲ビルの谷間の公開空地を調べる

M2 安東 政晃 結局、大荒れの天候に見舞われた研究室旅行でしたが、「強烈台風」を追い風にして、8月2日(木)から5日(日)にかけてM2の安東・仲村は香港、そしてマカオへと足を延ばしました。

香港では屋台を見学すべく、九龍のテンブルストリートへ。屋台の列は数百メートルにも及び、買物をする人、飲食を楽しむ人、商いに精を出す人、唄う人などで盛り上がるその一角は、空調機器の室外機や路上に張り出す看板が織りなす町並みと相まって、雑多な雰囲気強く感じさせる場所でした。

そして香港とは違った刺激を持つマカオへ。世界遺産に指定されている歴史地区には、大勢の人が憩う広場など西洋の空気が色濃く残り、しかし一本裏に入ればそこには建物が密集するアジアの雰囲気が、そして繁華街には無数のネオン。移り行く景色に掻き立てられ、ギアの丘に登り、マカオのエネルギーを背景に記念写真を一枚。

両都市ともに急ぎ足の散策でしたが、日本と違う部分を感じ、都市への興味がさらにふくらむ時間となりました。

留学生コーナー第20弾！ An Essay by International Student Vol.20

My works in Seoul

私は大学を卒業してから25年間ソウル市庁と区役所に勤めてきました。

その中で半分ぐらいの期間にわたって、都市計画の分野で地区単位計画を立てることや都市再生事業の認可などの業務を担当しました。

今年2月、東大に来る前までの2年間はソウル市庁の都市計画局で『民間と公共の間で協力によって都市計画の変更を推進』と言う業務をしました。この内容は、工場や学校だった大規模の敷地の活用方法について、開発に伴う利益が単純に敷地の所有者に帰属されないようにしながら地域発展のために役に立つ計画をつくること、そして利益の相当額を公共事業に投資を誘導することでした。



▲建ぺい率44%容積率300%の当初計画案



▲建ぺい率29%容積率254%に減じた修正案



▲大規模再開発の対象敷地

今までの経験から見ると、都市計画を民間の意見を聞きながら調整すること、開発後の利益推定と再投資を誘導する業務は前例もないし、様々な葛藤や思いもよらない問題も発生したので、残念ながら2年間で一件も完成させなかったのです。ソウル市では今までの経過を見守りながら、その制度を一層発展して大規模の敷地を開発しようとする時、将来一つの基準にする予定となっています。

プロジェクト報告 清水 Shimizu-project プロジェクト

清水プロジェクトでお世話になっているフェルケール博物館での夏休み企画展にあわせ、黒瀬助教による基調講演が行われました。

text_omori

7月28日(土)に、清水港の海事博物館であるフェルケール博物館で、夏休み特別企画「みなとのこれな〜に」展の開幕セレモニーが行われ、黒瀬助教による基調講演が行われました。清水港の港の成り立ちと都市構造との関係などを、プロジェクト活動の研究成果や、昨年度の修了生である高見さんの研究成果を活用しつつ、分かりやすく解説しました。また大森からは台湾高雄港の倉庫を活用した港湾再生事例を紹介しました。

行事は午前中に終了したため、午後には、今まで何度も話題にのぼりつつも一度も訪れていなかった伊豆半島の石丁場(石切り場)を訪れることに。清水港日の出地区の切妻倉庫群の壁に使われている石も伊豆石の可能性が高いからです。

フェリーに乗り駿河湾を横断、さらにバスを乗り継いで訪れた松崎町の室岩洞は、戦後まで採石が行われていた石丁場ですが、現在はコウモリの住む石窟となっています。暗くひんやりとした洞窟のスリルを味わいつつ、石を採取しました。

ちなみに松崎町はドラマ版「世界の中心で愛をさけぶ」のロケ地で、なまこ壁の集落が残る非常に美しい港町でした。



▲テープカットに臨む黒瀬助教



▲駿河湾横断フェリーで清水から土肥へ



▲海沿いの断崖にある室岩洞石丁場



▲海から心地よい風が抜ける松崎町

Information

8月の予定

- 8月18日 清水PJ子供向けWS
- 8月19~20日 沖縄基地跡地コンペ現地調査
- 8月22~26日 大槌PJ吉里吉里集落WS

編集後記

松本 綾

ジュリー、そして研究室旅行と7月後半から8月初旬が怒涛のように過ぎ去っていきました。研究室旅行では、メンバー全員での台北見学はもちろんのこと、ほぼノープランで訪れた台南でも地元の方とのすてきな出会い(詳細は石井さんの台南滞在記で!)に恵まれ、もっと滞在していたと思うほど台湾を満喫することができました。こうして、旅行やプロジェクトを通して国内外さまざまな場所を訪れ、地元の方と交流する機会を得られる自分はなんて幸せなんだろうと改めて実感した5日間になりました。